

生活交通改善事業計画（鉄道軌道安全輸送設備等整備事業）

（策定年月日）令和8年1月20日
（協議会名称）浜松市地域公共交通会議

1. 生活交通改善事業計画の名称

鉄道軌道安全輸送設備等整備事業計画
(遠州鉄道 鉄道線生活交通改善事業計画)

2. 事業の目的・必要性

遠州鉄道 鉄道線は、浜松市中心部の新浜松駅から、北遠地区への玄関口である西鹿島駅までの 17.8 km の区間を運行している。通勤・通学や買物などでの利用を中心に浜松市中心部と浜名区、天竜区を結び、平常時には 1 日約 27,000 人が利用している。本路線は、単線鉄道でありながら、日中は 12 分間隔の覚えやすいダイヤで 1 日 83 往復の列車を運行し、より安全で利用しやすい公共交通機関を目指している。

コロナ禍には、一時的に土日祝の運行本数を減便しながら運行を継続していたが、令和3年12月には運行本数を通常ダイヤに戻しており、現在はコロナ禍前の運行体制にて運行している。

令和7年度は、線路設備・信号保安設備・車両設備の更新を実施。令和8年度においても、鉄道の安全な輸送のための根幹的設備について、継続した計画的な設備の更新により、さらなる安全性の向上を図る。

3. 事業の定量的な目標及び効果

(1) 事業の目標

鉄道施設総合安全対策事業費補助等の補助制度を活用し、安全・安定輸送の確保に資する鉄道施設の更新や維持修繕を行うことにより、約 978 万人の輸送の安全性を向上させる。

(2) 事業の効果

信号保安設備他の設備整備による安全性および快適性の向上により、安心、安全で使いやすい鉄道を目指すことで、公共交通利用者の増加に寄与するとともに、地域の公共交通ネットワークにおいて幹線としての役割を維持する。

4. 事業の内容と当該事業を実施する事業者

(1) 事業の内容：実施事業者（補助対象事業者）

●事業の内容

補助対象事業	区分	工事内容	事業費(千円)
安全輸送設備(投資)	信号保安設備	連動装置(継電連動装置の更新)	184,700
		AFO 軌道回路(送受信器)の更新	15,000
	電路設備	吊架線(張替)	20,000
		変電所設備	変電所更新
	線路設備	レール(踏切重軌条化)	16,626
		マクラギ(ロングレール化に伴う PC マクラギ増設)	18,300
安全輸送設備(修繕)	車両保存費	全般検査(1 編成)	6,100
		車両重要部検査(2 編成)	8,400
		車輪削正(2 両)	820
		車輪交換(4 両)	14,360
合計			474,306

※変電所更新（小松変電所）は2ヶ年事業（R8・R9）

●事業を実施する事業者

遠州鉄道株式会社

5. 鉄道軌道安全輸送設備等整備事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額

令和8年度（当該年度）

事業の名称	総事業費 割合	国費 割合	都道府県負担 割合	市区町村負担 割合	事業者負担 割合
鉄道軌道安全輸送設備等整備事業	474,306 千円	158,101 千円	0 千円	0 千円	316,205 千円
	100.0%	33.3%	0%	0%	66.7%

※総事業費及び負担額については見込み額を記載。

※各年度の詳細は別紙参照。

※国の令和7年度補正予算が利用できる場合には補正予算にて実施。

6. 計画期間

以下項目別に概ねの着手・実施期間を矢印 (←→)、または横棒線 (—) で記載。

●で年度ごとの事業着手日、事業完了日を記載

事業の名称	令和 8 年度			令和 9 年度			令和 10 年度		
	4月	9月	12月	3月	4月	9月	12月	3月	
鉄道軌道安全輸送設備等整備事業		←		→					

7. 協議会の開催状況と主な議論

- ・令和 8 年 1 月 20 日（令和 7 年度第 3 回浜松市地域公共交通会議）
生活交通改善事業計画（バリアフリー化設備等整備事業、鉄軌道安全輸送設備等整備事業）について協議。

8. 利用者等の意見の反映

地域住民・利用者代表として自治会連合会、市民団体が協議会構成員となって協議に参加。

9. 協議会メンバーの構成員

関係都道府県	静岡県交通基盤部地域交通課
関係市区町村	浜松市都市整備部
交通事業者・交通施設管理業者等	静岡県バス協会、遠州鉄道株、浜松市タクシー協会、静岡県タクシー協会浜名湖北遠支部、遠州鉄道労働組合、浜松中央警察署、浜松東警察署、浜松西警察署、浜北警察署、天竜警察署、細江警察署、浜松市土木部
地方運輸局	中部運輸局静岡運輸支局
その他協議会が必要と認める者	名城大学教授、天竜地域自治会連合会、北地域自治会連合会、浜北地域自治会連合会、南地域自治会連合会、浜松いきいきネットワーク、NPO法人がんばらまいか佐久間、NPO法人春野のえがお

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 静岡県浜松市中央区元城町 103-2

(所 属) 浜松市都市整備部交通政策課

(氏 名) 竹内 駿平

(電 話) 053-457-2910

(e-mail) kotsu@city.hamamatsu.shizuoka.jp

鉄道事業者の収支改善計画

(単位：百万円)

	R1	R2		R3		R4		R5		R6		R7		R8		R9		R10		R11	
		目標	実績	目標	実績（見込）	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績								
旅客運輸収入	1,664	1,711	1101	1,349	1250	1,433	1449	1,517	1623	1,559	1829	1,602	1890	1,829							
運輸総収	92	100	72	76	85	81	89	85	90	88	92	90	90	91							
収入計	1,756	1,811	1,173	1,425	1,335	1,514	1,538	1,602	1,713	1,647	1,921	1,692	1,980	1,920	0	0	0	0	0	0	0
運行費用	1,559	1,603	1,405	1,481	1,382	1,510	1,638	1,548	1,598	1,580	1,712	1,620	1,810	1,879							
鉄道事業収支	197	208	-232	-56	-47	4	-100	54	115	67	209	72	170	41	0	0	0	0	0	0	0
その他関連事業収支	5	-7	40	0	20	0	37	0	73	0	27	0	9	0							
全事業収支	202	201	-192	-56	-27	4	-63	54	188	67	236	72	179	41	0	0	0	0	0	0	0

(上記鉄道事業収支計画に盛り込んだ①增收策、②経費削減策の具体的な内容（内訳）)

①增收策内訳		2	0	1	1	2	4	2	4	2	3	2	3	2	0	0	0	0	0	0
P&R (パーク & ライド)		1					2		2	1	2	1	2	1						
イベント		1		1	1	2	2	2	2	1	1	1	1	1						
②経費削減策内訳		1	12	2	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0
省エネ車両への更新				1						1	1									
列車運行の最適化		1	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
改善効果(① + ②)		3	12	3	2	3	5	3	5	4	5	3	4	3	0	0	0	0	0	0

鉄道軌道安全輸送設備等整備事業計画
事業実施事業者名: 遠州鉄道(株)

3年

(単位:千円)

設備・保存費の区分	整備の概要	全輸送設備整備実施年度								備考	
		R8年度		R9年度		R10年度		年度			
		事業費	整備対象箇所	事業費	整備対象箇所	事業費	整備対象箇所	事業費	整備対象箇所		
信号保安設備	踏切保安設備(AFO更新)	15,000	自動車学校前駅～積志駅間	15,000	自動車学校前駅～積志駅間	15,000	自動車学校前駅～積志駅間				
	継電連動装置の更新	184,700	積志駅	150,000	遠州芝本駅	150,000	遠州小松駅				
変電所設備	変電所更新	190,000	小松変電所更新	215,000	小松変電所更新					小松変電所更新(2ヶ年事業)	
電路設備	ちょう架線更新	20,000	自動車学校前駅～遠州西ヶ崎駅								
	信号高圧配電線更新			15,000	自動車学校前駅～さぎの宮駅	15,000	さぎの宮駅～積志駅間				
線路設備	レール(重軌条化・ロングレール化)			61,487	遠州岩水寺駅～西鹿島駅(北工区)	50,000	遠州岩水寺駅～西鹿島駅(南工区)				
	踏切重軌条化	16,626	遠州岩水寺駅～西鹿島駅間			30,000	岩水寺1号踏切、岩水寺2号踏切				
	PCマクラギ増設	18,300	遠州岩水寺駅～西鹿島駅(北工区)	14,786	遠州岩水寺駅～西鹿島駅(南工区)						
	マクラギ(分岐器合成化及びレール交換)			13,604	西鹿島駅構内	13,000	西鹿島駅構内				
	避えつ橋改修	0		60,000	自動車学校前駅南	250,000	自動車学校前駅南			3ヶ年度事業(R9～R11)	
車両設備	制御装置(VVVVF制御装置)	0				50,000	2004号編成				
	電源装置(SIV装置)	0				30,000	2004号編成				
	車両更新	0				300,000	新造車両更新			2ヶ年度事業(R10～R11)	
車両保存費	全般検査	6,100	1編成2両	15,200	3編成6両	16,500	3編成6両				
	重要部検査	8,400	2編成4両	11,500	1編成2両	6,000	2編成4両				
	車輪削正	820	2両	2,870	7両	4,400	11両				
	車輪交換	14,360	4両	3,590	1両	3,400	1両				
	合計	474,306		578,037		933,300		0			

注) 1. 「設備・保存費の区分」欄は、「鉄道軌道安全輸送設備等整備事業に関する運用方針」別表の工事内容の区分又は鉄道事業会計規則に基づき記載すること。

2. 計画期間内において実施する設備整備がない場合は、「事業費欄」に「0」を記載すること。

3. 必要に応じて、対象設備の図面、写真等を添付すること。